

福岡県委託事業「ふくおか高齢者はつらつ活動拠点事業」

シニアフレンズ福岡だより

福岡市立中央市民センター創立30周年「フェスタ2011」特集号



記事二面）

シニアフレンズ福岡実行委員会事務局は、福岡市立中央市民センター内にあります。その中央市民センターの開館三十周年を記念して、去る二月五日(土)に「フェスタ2011」として、西南学院大学教授の宮原哲氏による記念講演会「モンスターペアレンツにならないために」や市民センター利用団体、音楽家によるコンサート、展示、ワーキングショップなどが開催されました。

フェスタ2011盛大に開催！ 登録ボランティア大活躍！



三十周年記念に寄せて
中央市民センター館長 木村義一

福岡城趾の木々に囲まれ、自然豊かな環境と交通アクセスにも恵まれて、これまで延五百三十万人余の方々にご利用をいただいております。この間、当センターは、中央区における社会教育の中核的な施設として、中央区の特性に応じた各種講座・講演会、ボランティア講座とともに、様々な人権問題について研修会・講座等を実施いたしております。今回、創立三十周年を記念し「フェスタ2011」として「講演会」「展示」「ワークショップ」などを実施いたしました。開催に当たりましては「シニアフレンズ福岡」登録ボランティアをはじめ、ご利用団体の皆様から全面的にご協力をいただいております。今後とも使いやすい施設として職員一同努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

「シニアフレンズ福岡」事務局の所在地（中央市民センター内）



目次

- フェスタ2011盛大に開催！……………1
- はつらつオンステージ、展示・ワークショップ……………2
- 登録ボランティア紹介……………3
 - 赤坂古文書会 副会長 加藤久嘉
- 寄稿「ボランティア活動について」……………4
 - シニア傾聴ボランティア「コスモス」代表 安永瑠美子
 - のこファミリーの活動について……………4
 - のこファミリー 西尾幸介

地下鉄「赤坂」2番出口および西鉄バス「赤坂門」バス停から徒歩5分。
国体道路「警固町」バス停から徒歩3分。駐車場の駐車台数は31台。

去る二月五日(土)に開催された「フェスタ2011」では「シニアフレンズ福岡」登録ボランティア団体の活動紹介も行われました。ここではその活躍ぶりを紹介します。

はつらつオンステージ

「日頃の成果を発表、客席から大きな拍手！」

ホールでは、午後から「はつらつオンステージ」として、ゲストの篠笛奏者、木寺昌記氏ほかによる篠笛と和太鼓の競演。声楽家、岩崎記代子氏とグループ「赤い鳥」が会場と一体となって童謡などを披露されました。

「シニアフレンズ福岡」からは、①『笑ってくられてありがとう』と題し「夢エンタークラブ」による客席を巻き込んだ笑いの心の唱和や手品や踊りが披露されました。②続いて『絵ばなし「かにむかし」を「カウンタールーナ」によるオカリナ演奏にあわせて「おはなしの会にじのはし」の皆さんが、スクリーンの映像にあわせて朗読をしました。



音楽レクボランティア「レインボー」のステージ

③昨年のボランティア養成講座から誕生した『音楽レクリエーションボランティア「レインボー」』はおなじみの「バラが咲いた」「さくらさくら」をミュージックケベルを交えて演奏して大きな拍手を頂

きました。

続いて④健康づくりL・G会は健康体操と太極拳の演舞を行い、日頃の公民館での活動成果を披露しました。

いずれの公演も客席と一体となって、なごやかな雰囲気の中で行われてわれました。

パソコン教室

「ワードでお絵かき」

三階ロビーでは、「シニアネット福岡」によるパソコン教室が開催されました。来場者はパソコンを使って、鮮やかな花などを楽しそうに描いていました。



健康づくりL.G会によるズンドコ体操

展示・ワークショップ

「歴史クイズラリー」も開催」

二階会議室では、日頃の活動を紹介する展示コーナーを設けま



した。

当日は、十一時からの開場でしたが、ボランティアの皆さんは朝早くから集まり、展示の準備をしました。



歴史関係資料の展示

各展示コーナーでは、団体の活動を知っていただくために活動の写真や地図などを展示しました。「歴史クイズラリー」は、出展した歴史関係ボランティアが問題を出し、それに来場者が回答するという内容です。

展示内容に即した福岡藩などに関する全十問のクイズに小学生から歴史に詳しいベテランの方まで約六十名の方に参加いただきました。全問正解の方も多く、郷土史への関心の深さがかがえました。

また、日頃、保育園などでボランティア活動をしている「人形劇団ピンコピン」は人形劇で使用するしている手作りの人形を展示しました。実際に人形を間近に見ることが出来るので親子連れに人気のコーナーとなりました。



人形劇団ピンコピンの皆さん

「シニア傾聴ボランティアコスモス」は、日頃の活動をわかりやすくパネルで紹介していました。また、当市民センターを利用して団体による「ししゅう」「俳句」の展示や「プリザーブドフラワーづくり」「卵を使った干支のうさぎづくり」も行



われしました。

ため蔵(南区広報キャラクター)も登場

登録ボランティアの紹介

赤坂古文書会 副会長 加藤 久嘉

私たちは、平成20年10月から半年間開講された「古文書解読ボランティア養成講座」を受講し、幕末の福岡藩をめぐるいくつかの古文書を教材に解読の基礎を学びました。

ただ、古文書解読は個人的には勉強になっても、果たしてこれがボランティア活動とどう結びつくのがよく分かりませんでした。未解読の文書を読み解き、記録すること自体がそうなのだという説明に、自らも学びながら歴史研究の基礎資料作成の手伝いができるという、一石二鳥の活動に魅力を感じました。

もともと歴史なり郷土史なりに興味を持った人がほとんどの受講生ですから、講座が終わった後ももっと古文書に触れてみたいという希望者が多く、講座終了の翌21年4月に赤坂古文書会を結成しました。会の名称は中央市民センターの地名をいただきました。

解読する文書は「嘉永六癸丑年秘記 御當番」と題された福岡藩家老(大老)黒田播磨の個人日記です。この嘉永六年という年はペリーが浦賀にやってきた年です。佐賀藩と共に「長崎御番」にあたっていた福岡藩はどんな動きをしたのでしょうか。興味津々です。

でも、古文書解読の基礎の基礎をわずか半年ばかり習った程度の私たちだけではとても解読することはできません。

既に古文書解読に進めておられる「筑前黒田家文書を読む会」の会長さんをはじめ会員のご指導を受けながら解読を始めました。

やはり初めの頃は分からない文字が多く、ノ

トに筆記してみてもほとんどが不明文字〇〇でしたが、2年近く続けてきましたら〇の数が随分減りましたし、「勘」が働いてうまく解読できるところが増えてきました。

こうなると書かれた内容をもっと詳しく知りたくなり、他の文献で確認したり、インターネットで調べたりします。

会の発足と目的が、ボランティア活動ですから、この成果として翻刻出版をする予定ですが、まだ全体の3分の2程度しか読み解いてはいません。

また、読み解きと併せてパソコン操作ができる会員で翻刻のための基礎整理を進めています。分担して入力し、メールで確認しあいながら作業をしています。パソコン操作の勉強にもなっています。

今、試みにどれだけの人がこの日記に登場したのかを調べてみたら、100頁足らずの間に422名もの人物が登場しています。これからもっと増えることでしょう。

この日記を読んでみると、当時は形式や格式、或いは前例をいかに重んじていたかが分かります。金山の開発や神社仏閣の保護、そして、大砲の新調や火薬が少なくて演習ができない等といった願いを捌く一方、播磨さんは出された料理を細々と記録し、中には箸もつけずに土産に持って帰ったり、休日には部下たちとよく猟に行き、歯痛で苦しんだりもしています。下級藩士の遊学の許可、殺人事件など、実に多様なことが細々と書かれていて、当時の状況が目に見えるようです。



「ボランティア登録しませんか？」

シニアの皆さん、自分の知識や経験、技能、特技をボランティア活動に活かしませんか？

「シニアフレンズ福岡」は、シニア世代のボランティア活動を支援するため、ボランティア登録制度を設けています。活動を希望される方は、グループ・個人とも、ご遠慮なくご相談下さい(登録料などの費用は一切不要です)。(事務局 TEL714-5521)

○登録ボランティア

- ☆夢エンタークラブ
- ☆人形劇団ピンコピン
- ☆ラ・レーヌ・デ・ヨカッタ
- ☆ちんどんオーケストラ
- ☆カウンターレルーナ
- ☆音楽レク“レインボー”
- ☆のこファミリー
- ☆健康づくりLG会
- ☆ハートフル手話ダンス
- ☆福岡ガイドシニアクラブ
- ☆貴賓館ボランティア
- ☆ちゅうおうきんぐ
- ☆福岡歴史探訪ガイド
- ☆赤坂古文書会
- ☆舞鶴古文書会
- ☆お話しの会“にじのはし”
- ☆シニア傾聴ボランティア“コスモス”
- ☆傾聴サークル福岡えがお
- ☆NPO法人シニアネット福岡
- ☆ハンドメイド華の会

私たちは、毎月第2・第4火曜日の10時から12時までの二時間、中央市民センターで輪読会を開いています。二週間に一回の開催というのがちやうど良い間隔のようです。

これが毎週だと予習が大変ですが、二週間の間があるとなかなか余裕です。

途中から参加された方もいらつしやいますので、興味をお持ちの方、お気軽にお立ち寄りください。思わぬ発見に眼からウロコもしばしばです。古文書を通して生きた歴史の背景を探る楽しさを一緒にしましょう。

寄稿

ボランティア活動について
シニア傾聴ボランティア「コスモス」
代表 安永瑠美子

二十一年十一月に「シニア傾聴ボランティア養成講座」を終了、二十二年一月より活動を開始しました。傾聴とは、ひたすら相手の話を聴くと学びましたが、高齢者施設では、話を聴くのは難しいと感じることが多いと思っていました。寄り添う、沈黙を恐れない。そう思いながら、私はここで役立つのだろうか、そう自分に問いかけ心が萎える日もありました。仲間が自分とは合わないからと辞める人も出てきました。

そんな中、施設の職員さん達と顔見知りになり、少しずつ緊張も取れ、施設の方々から話を聴くことが楽しみになってきました。

何度同じ話をされても、一緒にその中に入り、相槌を打ったり、頷いたり、オウム返しをしたりとか、忘れていた事が多くなっても、遠い昔、自分の中に忘れられない事がある人にもあるんだと思えました。楽しい思い出は、笑顔で、悔しい事には怒りの表情で話されます。戦争を経験された人から、生で聴く語りは、大変な時代を歩かれた人達がいて、今があると感じました。

月に一度の訪問なので顔を覚えて貰っている人は僅かですが、帰る時、杖を突きドア迄見送って『また来てね』そう言い、何度も手を振って下さる。次回は、また『いいお名前ねえ』から始まるけど、一時を一緒に頂きありがとうございます。暖かい気持ちで施設を後にしています。

俳優の故・牟田悌三さんが、ある活動を十年間されていて「ボランティアは自分を犠牲にすることではない。自分がボランティアをすることによ

って普通の生活では手に入れることが何ものかを得るのだ。だからボランティアは自己開発だ。という考えに至った」と最近雑誌で読みました。心にしみる言葉だと感じています。

「一人暮らしになった」「自宅での介護が無理になった」等、様々な理由で施設暮らしをされている方々。「季節の移り変わりを窓から眺めているのよ」そんなお話を聴くこともあります。

傾聴ボランティアとして経験を重ねながら「スキルアップを積み」一緒に活動してる仲間と歩いていけたらと思います。

ボランティア活動に関心を寄せながら仕事等で出来なかつたけれど、今、傾聴に出会い嬉しく思っています。自分の生きる意味、生き甲斐、そして少し社会貢献が出来ればと思う日々です。

のこファミリーの活動について
のこファミリー 西尾幸助

私たち「のこファミリー」は、今年で4年目に入りました。現在のメンバーは7名です。

状況にあわせて4〜5名で主に福祉施設や病院、一般では祭り、イベントの参加、カラオケ大会のゲスト時にはプロ歌手との共演もあり、活動範囲もさまざまです。コンサートの内容は、カラオケをバックに始めの2〜3曲は私がソロでのこぎり演奏をします。その後、メンバーがかわるがわる歌で参加します。童謡、唱歌、今、流行の演歌、歌謡曲又は懐メロや洋楽等を演奏しています。



途中、皆さんと一緒に歌ったりのこぎりを実際にさわってもらい、どのように音を出して

いるのか体験していただくこともあります。このコーナーが皆さんとの距離を一挙に縮め雰囲気作りにとっても重要です。

福祉施設では、若かりし頃のことを思い出されたのか涙される方、又は、元気よく歌って下さる方、ある時は踊りまで踊られる方もいらっしゃいます。こうして、あつと言う間になごやかなひとときが過ぎていきます。後で、スタッフの方からお聞きしましたが、普段会話もままならない方が、一生懸命歌っておられたとの事。皆さんにただただ感謝です。

又、西区の病院でクリスマスコンサートをさせて頂いた時の事、そこは重傷の患者の方ばかりおられるホスピスの病棟でした。

いつものように車イスやベッドにすわり、一緒に歌って下さる方もおられました。なかには点滴や色々な機器を付けベッドで身動きとれない状態の方が一生懸命拍手しようとされていたと、後で聞き本当に感動しました。

何とはなしに興味で始めたのこぎり演奏でしたが、メンバーの歌が僕の後押しとなり、一人では何も出来ないと言う事をつくづく感じているところです。これからは、のこぎりだけではなく外のめずらしい楽器にも挑戦し、皆さんに聞いていただけるよう頑張っていきたいと思っています。

シニアフレンズ福岡だより 第九号
平成二十三年三月
編集発行 「シニアフレンズ福岡」
実行委員会事務局
福岡市中央区赤坂二一五―八
福岡市立中央市民センター内
TEL (092) 714-1552
〒 810-0042